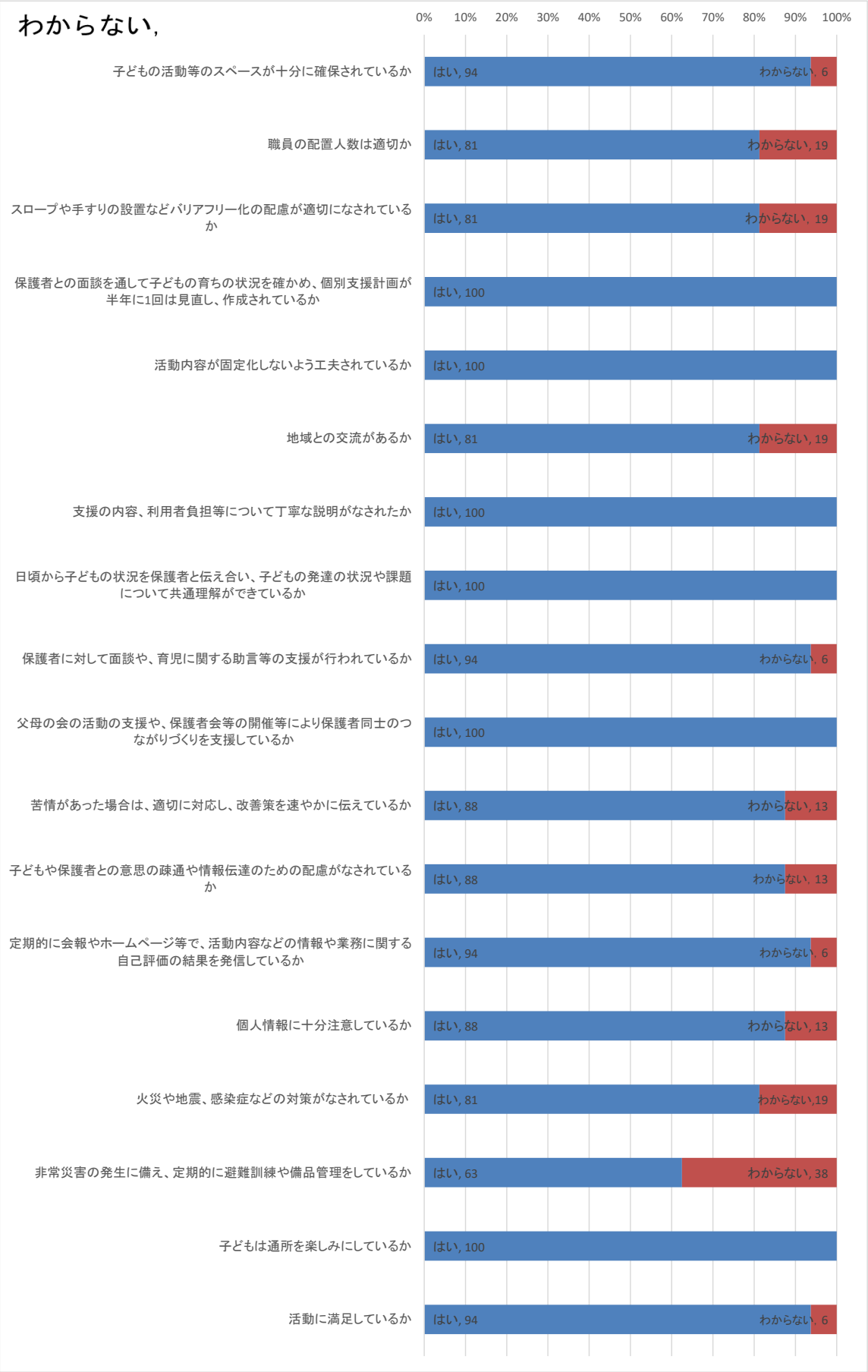


2024年度放課後等デイサービス事業者 自己評価 検討結果(わんぱくクラブ三軒茶屋)

アンケート結果



改善点など

	工夫している点	課題	改善目標
環境・体制整備	・公園・緑道散歩に出かける機会を増やした。室内で体を使った遊びを提供・設定し、子どもの興味関心を惹く遊具を増やした。 ・有資格者の採用につながる求人媒体を活用、ハローワーク主催の福祉のお仕事面接・相談会に参加し、採用活動を積極的に行った。 ・ふくチャレで福祉に興味のある方の現場実習受け入れを行った。 ・送迎など人手が必要な時間帯のみの短時間勤務のスタッフを採用した。また、子どもとの関係を深める意味も込めて、送迎＋短時間の保育勤務をお願いした。	・アルバイトから正社員採用はできたが、新規スタッフの採用ができなかった。 ・エレベーターから直結かつボタンの設定ができない、子どもの飛び出しなどのリスクの高い状況である。	・有資格者の採用につながる求人媒体の活用及び開拓を行う。また、保育専門学校や社会福祉学科等、資格取得可能な大学への求人募集、実習生の受け入れについて検討・実施する。有資格者・経験者に対して魅力的な労働環境・条件を整えていく。 ・直接求職者と話ができる就職説明会などに積極的に参加する。 ・玄関にフェンスまたは壁を設置する。
業務改善	・毎週末職員ミーティングを行い、ヒヤリハットや情報共有を行い、翌週のスタッフミーティングで、全スタッフに共有を行っている。 ・その日の子どもの様子・ヒヤリハットなどを書き込めるスタッフ何でもノートを作成した。ノートに書かれている内容を週末の職員ミーティングに活用した。 ・新規職員には、実務や活動のリーディングなど、ベテラン職員が指導を行い、段階的にスキルアップできるように育成している。 ・法人内で、職員や保護者を対象にしたオンラインの研修を企画し、実施している。	・業務の効率化ソフトについて、情報収集や導入ができなかった。	・放デイ・児発に特化した業務効率化ソフトのサーチ・トライアルを行い、導入を検討していく。
適切な支援の提供	・当日のミーティングで、活動予定や留意事項ををスタッフ間で共有している。活動予定は、日案に記載し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。保育後もミーティングを設け、ヒヤリハットや保育・利用者の振り返りを行っている。利用者1名にフォーカスを当てて個別支援計画の4項目別に情報・課題の共有を行った。 ・集団遊びを毎日行っており、来所する利用者の認知や身体発達状況も踏まえて、興味関心を惹き、達成感のある活動を企画している。 ・施設内にて、数種類のお弁当を用意し、食べたいものを選ぶこと、落ち着いて必要なお金を払うことを経験できる「買い物学習」を企画した。	・施設単体での職員、アルバイトスタッフの資質向上・利用者理解を目的とした学習会・研修会の実施が十分に行えなかった。	・保育前後のスタッフミーティングの時間を活用し、利用者一人一人の情報及び課題の共有・対応検討会を行う。合わせて、障がい特性や支援力工場のためのミニ学習会を実施する。
関係機関や保護者との連携	・連絡ノートを来所時に確認している。必要な情報は職員・アルバイトで共有している。活動内容、その日の様子などを書くことで保護者との共通理解を行っている。 ・半年に1回保護者と個別面談を行い、わんぱくの様子を伝えると共に、家庭や学校などでの様子を伺ったり、保育への要望を聴き取ったりしている。 ・保護者会を開催した。内容は保育報告や報酬改定について、青年期に向けた進路・選択肢について。 ・保護者会後に保護者代表(運営委員)と協力して懇親会を2回実施した。 ・相談支援センター、児童相談所、学校、移動支援事業所との支援会議に出席した。 ・施設のおたより「わんぱくだより」や、広報誌「わんぱくプレス」にて、保育の内容を報告している。 ・ぼーとせたがや主催のイベントに出店した。(法人として) ・同じ建物内のまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、イベントでお世話になったぼーとせたがやに協力していただき、ハロウィンのお菓子をもらいにいくイベントを実施した。	・施設だよりの発行が定期的に行えなかった。(年度後半より月1回発行できるようになった)	・施設だよりを毎月発行し、利用者・活動の様子を定期的に紹介する。季節ごとのスライドを作成し、玄関先でお迎えに来た保護者が見られるように上映する。また、防災訓練の様子や防災時の対応についても周知する。
保護者への説明責任等	・契約書・重要事項説明書を基に、利用者負担金などについて説明をしている。 ・車輛利用に関して同意書を作成し、運用方法について同意を得ている。 ・利用に関する要望や希望について、利用の可否とその理由について、対面や電話にて説明を行っている。 ・怪我や事故の発生時、発生後、通院への付き添いやそれに伴う利用者・家族へのフォローを適切に行っている。	・運営委員と協力し、保護者会＋懇親会を行ったが、参加人数が少なかった。	・年間予定を組んで保護者会を設定する。また、フルタイムで働いている保護者の参加しやすい日時の設定、先輩保護者の話を聞く会など年齢層別の会など参加したいと思うような内容を計画する。
非常時等の対応	・入会時や定期的に行うアレルギー・てんかん調査表に基づき、非常時の対応について把握している。 ・災害備蓄品を置いている。定期的に点検し、年間で予算を決めて購入している。 ・建物内の連絡会に出席し、自衛消防訓練の参加、非常時の対応について共有している。 ・自衛消防訓練や避難訓練の実施の報告、災害時の連絡方法についてを施設だよりで保護者に伝えた。	・不審者対応について、具体的な訓練を実施できなかった。	・警察に協力を求め、不審者対応の訓練を職員で実施する。